

株式会社PALTAC・Kyoto Robotics 株式会社 協業によるマスターレスの物流自動化を推進



株式会社PALTAC（以下、PALTAC 本社・大阪市 代表取締役社長 糟谷 誠一）と Kyoto Robotics 株式会社（以下、KRC 本社・滋賀県草津市 代表執行役社長 徐 剛）は、ケースピッキングにおける自動化に関するパートナーとして取組むことに合意いたしました。

PALTACは、将来の労働人口減少を見据え、人員生産性が2倍となる独自開発の次世代型物流システム「SPALD」を開発し、昨年8月に「RDC新潟」（新潟県見附市）を稼働いたしました。現在、さらに高機能・高生産性を実現するセンターとして「RDC埼玉」（埼玉県北葛飾郡杉戸町、2019年11月稼働予定）の建設を進めております。PALTACとKRCとの協業により、「RDC埼玉」において、ケースピッキングにおける事前のマスター登録不要の、高機能・高速のAIロボットを新たに導入することに合意しました。

KRCソリューションの最大の特徴は、独自開発の「目（ビジョンセンサ）」と「脳（AI）」を活用することで、従来必要であったマスター登録作業が不要となることです。PALTACが運用する物流センターでは、常時2万種類以上の商品を在庫し、さらに毎年1万種類近い商品が入れ替わる状況にあります。KRCのケースピッキングロボットを導入することにより、商品ごとに異なるケースのサイズや重量を、導入初期及び改廃の都度行っていたマスター登録が不要となるとともに、時間当たりの処理能力も向上いたします。

〈KRCが提供するケースピッキングロボットの特徴〉

- ① ケース3寸法（幅・奥行き・高さ）や重量の事前登録作業が不要
（ビジョンセンサとAI等によりロボット自身が認識）
- ② ケース把持位置の事前登録が不要（把持位置をロボット自身が決定）
- ③ ケースピッキングと同時に3寸法や重量をデータ化して登録
- ④ ピッキングスピード向上（1台当たり700ケース/時間）

という優れた特徴を有し、ピック数を指示するだけでピッキングが可能となり、従来、人に出していた指示形態（個数指示のみ）と近い状況でロボット作業が実施できます。

〈期待する成果と今後の展開〉

PALTACとKRCとの協業により、これまで物流業界では困難であったケースハンドリングのマスターレスによる自動化を実現し、さらなる活用・応用範囲を広げることで生産性の向上を追求し、事業の持続的成長を図ってまいります。

〈KRCの概要〉

商号	Kyoto Robotics 株式会社
所在地	滋賀県草津市野路1-15-5
代表者の氏名	徐 剛（代表執行役社長）
設立	2000年 ・立命館大学教授でもある徐氏の3次元ビジョン研究の成果を活かして設立されたベンチャー企業。
事業内容	・3次元計測、3次元認識、3次元ロボットビジョンセンサ、目と脳を持った知能ロボットなど、数多くの技術と製品を開発。 ・2018年6月に、日本を代表するベンチャー・J-Startupの1社に選ばれています。現在は、工場自動化向けの3次元ロボットビジョンセンサと物流自動化向けのケースピッキングロボットの開発・販売を展開。 ・物流向けソリューションの基本理念 「独自技術の「目」と「脳」で物流に新しいソリューションを提供」 ロボットに「目」と「脳」を持たせ物流における作業を自動化商品詰め替え（ピースピッキング）、積付け／デパレタイズ（ケースピッキング）といった重労働・単純労働から人間を解放し、無人倉庫実現により、物流の歴史を根本から変える。

- (注) 1. RDC (Regional Distribution Center) : 大型物流センター
2. J-Startup : 経済産業省が推進するスタートアップ企業の育成支援プログラム

本件に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

《株式会社PALTAC》
研究開発本部・三木田（TEL 06-7167-4401）
経営企画室・嶋田（TEL 06-4793-1090）

《Kyoto Robotics 株式会社》
人事広報部・諸岡（TEL 03-6457-0899）

〈ご参考〉

パレット上のケースをコンベアへ自動搬送

